

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



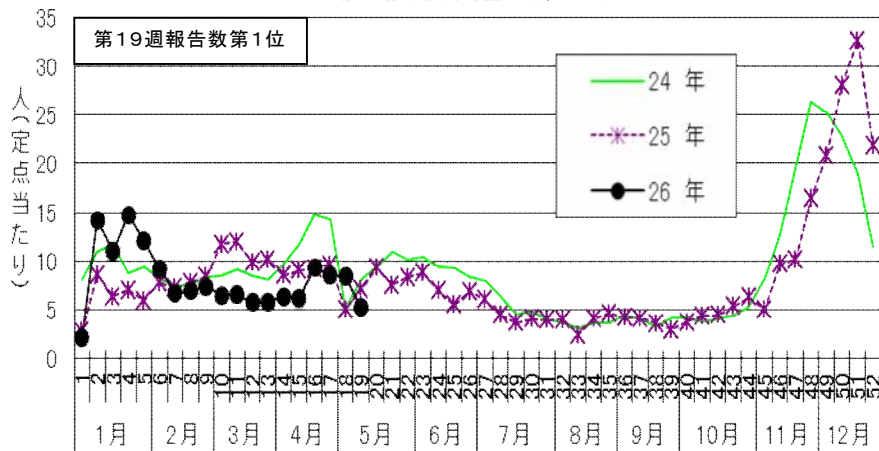
KAWASAKI CITY



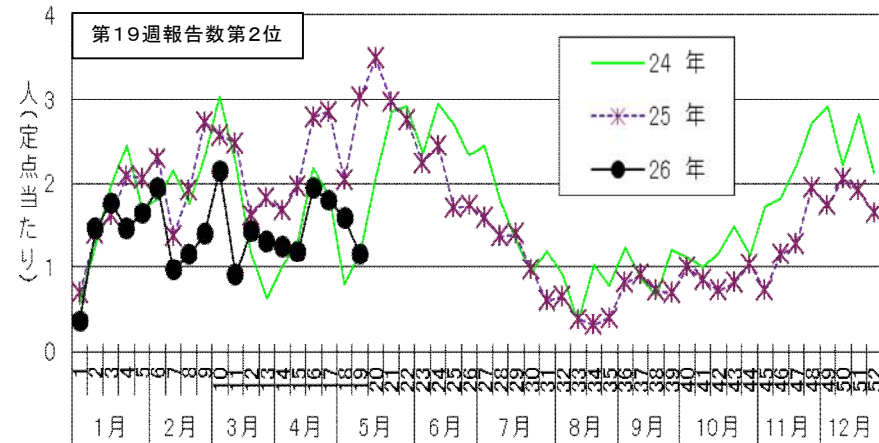
平成26年5月5日（月）～平成26年5月11日（日）〔平成26年第19週〕の感染症発生状況

第19週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.21人と前週（8.36）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.15人と前週（1.58）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 水痘は定点当たり0.85人と前週（0.85）からの患者報告数は横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



これから注意したい感染症～水痘(みずぼうそう)～

第19週はゴールデンウィーク期間中で休診の医療機関が多いため、ほとんどの疾患の患者報告数は減少しましたが、水痘は前週から横ばいとなっています。例年5～6月に増加する傾向がありますので、注意が必要です。

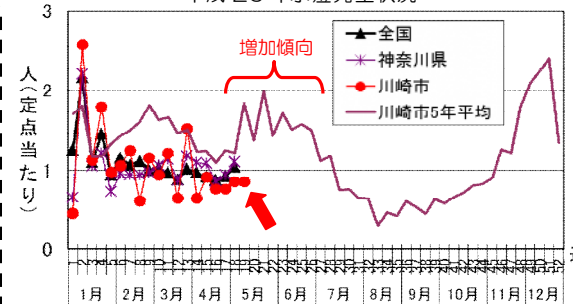
水痘ってどんな病気？

- 潜伏期間は2週間程度（10～21日）
- 症状は、発疹（水疱疹）、38度前後の発熱、倦怠感、かゆみなど 発疹は経過とともに痂皮（かさぶた）化 一般的に軽症
- 合併症は、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎など
- 発疹出現の1～2日前から出現後4～5日、あるいは痂皮化するまで伝染力あり

水痘の感染予防対策は？

- 感染力が非常に強いので、発症したら通院以外の外出はなるべく控え、登校・登園については、学校（園）やかかりつけ医などに相談しましょう。
- 予防としてワクチンがあります。本年10月以降は定期接種になる予定ですが、今の流行を避けるため、早めの接種をご検討ください。

平成26年水痘発生状況



学校保健安全法での取扱い

水痘は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次のとおりです。
 ○すべての発疹が痂皮（かさぶた）化するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

